

1 幼稚園教育目標

かしこく・やさしく・たくましく（すべては 子どもたちのために）

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

体験することと言葉での表現を大切にしながら自律をめざす教育活動を通して、家庭と園、園と小学校の円滑な接続を行う。幼稚園修了までに「生きる力」の基礎となる心情・意欲・態度を育てる。

3 目指す幼児像

○かしこい子ども → 知的好奇心旺盛で、自分で考え判断する子ども =自立
 ○やさしい子ども → 感性豊かで、相手を思いやる子ども =協同
 ○たくましい子ども → 進んで遊び、健康や安全に気をつける子ども =挑戦

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者・地域との連携協力・現状課題など）

本園は、福山市の東部に位置し、園から南は福山市へのJFE誘致とともに開発された団地が広がり、園から北は自然が豊かな環境の中にある。その経緯から、新旧混住の様があるが、坪生郷土史研究会が全国表彰されたように、地域のために・子どもたちのためにつながっていきこうという考えが色濃い地域である。幼稚園や学校を含めた街づくりを進めるなかで、当園に対しての支援協力も惜しみなくいただいている。少子化や労働者人口確保を課題とする現在の社会情勢を反映して家庭のニーズが多様化し、園児数は減少傾向にある。そのなかで、本園には小学校への滑らかな接続教育や交流体験など多彩な子育て支援の営みもあり、市東部の他学区からの入園児童も在籍している。

4歳児は、集団生活が初めての子どもがほとんどで、生活経験の多少に個人差もある。学級の人数が少ないことから、年長の園児との交流を視野に入れた保育活動が必要となる。また、園児の人へのかかわり方を見ると、自分の思いを言葉やいろいろな方法で伝えることが苦手で、活発な自己表出ができるよう育てることも大切となる。

5歳児は、2年目ということもあり、4歳児に優しく接したり遊びのルール等を身につけたりして、年長としての自覚がうかがえる。一方で、自分の主張はするが、相手の言い分や思いを聞こうとしないことから、トラブル傾向も存在する。また、自分で状況を判断し行動できるという点に不十分な実態が多々みうけられる。

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
自分の考えや思いをもち、相手意識を持って友だちとコミュニケーションがとれる子の育成。	幼稚園教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことを担う重要なものである。また、日々の保育（遊び）実践を通して、コミュニケーション力の養成や豊かな表現力の育成を図る場でもある。 子どもが興味をもち、気づき、自ら働きかけて試行錯誤し、工夫しながら遊び込める環境構成を考えたい。また、“できるようになりたい”という意欲を引き出し、子どもが粘り強く取り組める援助のあり方を模索したい。さらに、友達と一緒に遊んだり協同的な活動をしたりすることを通して、人と関わることの楽しさを味わわせたい。 そういう豊かな体験を通して、安定した情緒の下で自己を十分に発揮し、将来に必要なコミュニケーション力の基礎を体得させたい。

6目標・方策・評価

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評価結果	
					○=反省や課題	◎=改善のための方策
生きる力の基礎	主体的行動ができ、人と関わる力を育てる	人の話をしっかり聞き、自分の思いを話すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びを通して、コミュニケーション力や知的好奇心を育てる。 ・学級での語らいの時間に、主語・述語で話すことと根拠を持って思いを伝え合うことの機会をつくる。 ・年間150冊以上の絵本の読み聞かせを行う。 			
	健康な体づくりのための基本的な生活習慣を身につける	〔21時30分までに寝る子〕、〔7時00分までに起きる子〕、〔毎朝、朝食を食べてくる子〕を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほけん便り、幼稚園便り、園長便りなどで保護者啓発をするとともに、生活カードにより8時30分までの登園を促す。 ・年間1回以上、食育の専門家を招いての保護者研修会を行う。 			
教師の役割	遊びが創造的に広がるように連続性に配慮した環境を設定する。	専門性を高めるための研修と実践を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を体感できる遊びの環境を構成する。 ・エピソード研修の積み重ねを通して、期のねらいを踏まえた取組事例を学期に1本ずつのドキュメンテーションを作成する。 			
	質の高い保育（①高い学びの意欲②旺盛な知的好奇心③たくましい生活力④生活習慣の定着）を実践する。	園児一人一人の特性を理解した関わり方ができるよう力量を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・週案のねらいに基づいた振り返りを暮会で毎日行う。 ・園児の活動から見取れる特性や成長を分析して幼児理解を深めるとともに、集団としての育ちなどを職員で共有する。 			
信頼される幼稚園	質の高い幼稚園教育の提供をする。	毎学期終了時の保護者アンケートでの満足度「我が子は喜んで幼稚園に通っている」を95%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントを適切に実施する。 ・毎日の降園時に、園児の行動や育ちぶりを保護者に伝えることを続ける。 			
	保護者・地域との信頼関係を築く	毎学期終了時の保護者アンケートで「幼稚園には気軽に相談できる」を95%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・園便り・園長だより、写真だよりをHPで月2回以上更新する。 ・参観日、読み聞かせの「たんぽぽ会」、未就園児の会「つぼうランド」の一層の充実を図る。 ・保護者とともに、子育ての喜びや楽しさを共有する姿勢をもつ。 			